

アーチルニュース ちえなっぴ

第35号

《今号の内容》

『アーチル発達障害基礎講座』

『発達障害者支援地域協議会』

開催報告

※アーチルは「仙台市発達相談支援センター」の愛称です。
子供から大人まで、発達障害のある方の支援を行っています。
※ちえなっぴは「CHIN UP! (前を向いて)」の意味です。

～ 本人を真ん中に置いて支援体制を考える「協議会」～

令和4年4月でアーチルは開所して満20年となります。この20年間、本当に多くの方々のご理解やご協力に支えられて、南北二館のアーチルを運営してこることが出来ました。関係の皆さま方には、この場を借りて心より感謝申し上げます。

アーチルは開所当時より、本人を支援の真ん中に置き、本人や家族の「こう生きたい」、「こうなりたい」の実現に向けて、関係機関や地域の支援者と皆さんと一緒に、望まれる支援体制のあり方等を考えて来ました。このことを具現化する場の一つが、今回のちえなっぴで取り上げている「発達障害者支援地域協議会」です。この「発達障害者支援地域協議会」は「発達障害者支援法」の改正に合わせて定められたもので、本人・家族に加えて、医療・保健・福祉・保育・教育・労働・司法等の関係機関職員や学識経験者等約20名の委員にお願いして、本市における支援体制の現状や課題、今後の体制整備のあり方等について協議をいただいております。

また「協議会」の下部組織に「部会」を置き、さらに掘り下げた検討が必要なテーマについて意見交換を行ってきております。平成30年度～令和2年度までの三年間は「学齢期の支援のあり方」について検討をしてきましたが、今年度からは「学齢後期～成人期に向けた支援のあり方」について検討をはじめたところです。こちらについては、次年度以降も引き続き検討内容等をこのちえなっぴの中でも皆さまに発信していきたいと思っています。

北部アーチル所長 蔦森武夫

『アーチル発達障害基礎講座』をオンデマンド形式で開催！

近年、コロナウィルス感染症の拡大の影響により、集合での研修開催が難しい状況となっています。そこで、令和3年度の発達障害基礎講座では、日ごろ、発達障害児者の支援に関わる支援者の皆様向けに、WEBを活用したオンデマンド型の研修を企画してみました！

『発達障害児者支援の基本的な考え方と連携の必要性について ～本人・家族を中心として、地域で生活を支えるということ～』

第1部 「発達障害児者支援の基本的な考え方～家族を支える～」

講師：北部・南部発達相談支援センター 小児科医 奈良 千恵子 主幹

第2部 「アーチルの役割と本人が地域で暮らすための連携・協働した支援について」

講師：南部発達相談支援センター 早坂 健一 所長

R3.6.30～R3.10.31 仙台市の公式YouTubeチャンネル「せんだいTube」に掲載

★視聴回数★

「第1部」2,653回

「第2部」1,229回

沢山のご視聴を
いただきました!!

事後アンケートでは、「複数日に分けて、業務の都合にあわせながら受講できた」、「手軽に参加できた」など、オンデマンド配信ならではの良さについての感想も寄せられました。

引き続き、コロナ禍でも可能な形での研修の企画を考えてまいります！

『発達障害者支援地域協議会』開催報告

協議会の「声」から

令和3年度の協議会では、「成人期の自立を実現するために必要な支援やネットワークのあり方」をテーマにした作業部会を設け、委員の皆様から、現状や取り組みのご紹介を含めた様々なご意見をいただいています。

その一部を、キーワードとともにご紹介いたします。

「居場所・仲間づくり」

…本人にとって安心できる人間関係、ネットワークを複数持っていることが本人の支えになる。

…余暇活動の中で、自分の役割を持つことで少しずつ自信をつけていく様子がある。

「学齢期からの生活の土台づくり」

…生活スキルなどの生きる力をあえて学ばせる機会を作ることが本当に大事。成長すれば自然とできるはずと思っても、教えなければ身につかない。

…生活スキルが増えてくると家族の役に立てて嬉しい気持ちが生まれ、本人の自信につながる。



『発達障害者支援地域協議会』ってなに？

アーチルでは、生涯ケアを目指して、乳幼児期から成人期までの発達障害のあるご本人とご家族からの相談支援にあたっています。

それぞれの地域の中で、安心して暮らしていけるよう支えていくためには、様々な社会資源が整えられていくことや、その生活や支援に関わっていく様々な関係機関が、連携していくことがとても大切です。



発達障害者支援地域協議会では、様々な分野で支援にあたっている方や専門家に委員をお願いし、発達障害児者支援に関する情報共有や関係機関との連携が進むように話し合いを行っています。

「具体的な経験の積み重ねと振り返り」

…発達障害の方は、具体的に取り組んでみないとイメージがつかない方が多い。いろいろ経験を積むこと、実際に体験することが大切。

「情報のアクセスしやすさ」

…進路や働き方の選択肢はたくさんあるはずなのに、暮らしのロールモデルが少ない。いろいろな選択肢があることを、彼らに届くようにガイダンスして、資源につなげられるといい。

…実際の先輩の姿などを見に行くなどで知ること、自分自身のこととして初めて考えることができる。

《連絡先》

仙台市北部発達相談支援センター（北部アーチル）電話：022-375-0110

仙台市南部発達相談支援センター（南部アーチル）電話：022-247-3801

《ホームページ》 <http://www.city.sendai.jp/kenkou/hattatsu/gaiyou/> もしくは「アーチル」で検索

※この広報紙についてのご意見・お問い合わせは上記の北部アーチルまでお願いします。